

2025 年 6 月度 中部品質工学会 議事録

- 開催日時 2025/6/7 (土) 10:00～16:00
- 開催場所 アイテックインターナショナル
- 会員参加者<敬称略> S：オンサイト出席・L：オンライン出席、欠：欠席、書：書記、休：休会

大見	S	牧野	S	横尾	S	城越	S	伊藤	S	舟山	欠	出島	S	水田	S
山口(展)	S	黒田	L	鈴木	S	池田	S	山口(直)	S	前田	S	木村	S	藤井	S
北村専務	L														
小西	休	中山	休	李	休	河合	休	則尾	休	杉浦	休	福田	休		

4. 研究会内容

1) テーマ相談1 (木村)

内容非公開

2) テーマ相談2 減速機の内部温度の推定 T法 β の扱いについて (城越)

5月に関西・広島・中部合同研究会で発表した際に出た質問の相談
T法の項目寄与率を決める式において、結果－X軸、項目（因子）－Y軸にプロットした際の単回帰傾き β をどう扱うか？T法の式では分母に入れるが、分子に入れたほうが推定精度が上がる旨、アドバイスがあった。
中部品質工学会のメンバーは、この内容はご存じなかった。関西QEの質問主に聞くことにした。

3) 品質工学教材開発の検討(全員)

1.コマ実験セット

品質工学教材「コマ実験セット」について、再現性に関する問題点を確認するため研究会内で実験を行った。あらかじめ実施した二つの予備実験（6因子2水準の多元配置実験、L18の直交実験）で制御因子間の交互作用や測定誤差、組立誤差の大きさを確認しており、これをもとに制御因子間の交互作用が大きかった因子「A」「B」に加えて「実験繰り返し」「誤差因子(N1、N2)」を加えた4因子2水準で多元配置実験を実施した。分散分析の結果からは「因子A×誤差因子」「因子B×誤差因子」の交互作用の分散が最も大きくなったものの、そもそも実験誤差が大きすぎて、結果が疑わしい。実験は再度やり直しが必要と考える。

2.紙コプターの実験

制御因子と誤差因子の交互作用が有意になったので、教材として使えそう。計測誤差はビデオ判定で十分小さいため問題なし。最初の離し方がばらつくが、それなりに習熟した人が行った。教材研究の発案者がたまたま不在だったので、次回この結果をレビューして、今後の進め方のコメントを戴きつつ会として決定する。

4) 事務局連絡 (山口直)

1)合宿研究会の詳細

日程：11/8(土),11/9(日)

場所：あいち健康の森プラザホテル

宿泊部屋、会議室、食事などを仮予約済

2)対外関係

関西品質工学シンポジウム(10月?)および業務改善発表大会(10/22)に関する発表候補者を確認